

品野地区・白岩、片草

信州飯田街道が丘陵内を通り、このあたりは難所の一つとなっていました。江戸時代は山仕事中心の山間の集落でしたが、美濃との国境にあたることから中世の山城跡などが残されています。



石造薬師如来坐像（市指定文化財 / 彫刻）

この薬師如来坐像は、美濃との国境であった片草町の薬師堂に安置されていました。花崗岩製で、立方体の台座上に置かれ、台の正面には「享保十一年（1726）丙午三月吉日」と彫られています。瀬戸市内に遺る石造仏の中でも古いものの一つです。台部の正面・側面・背面には反花が刻まれ、その反花に対する請花が坐像に彫られています。像の眼は半眼で、顔全体が柔和な面持ちになっています。また、法衣は左右対称で、その法衣と袈裟の下から両手を出しており、指を互に入れ組み、左右の人指し指と親指で薬壺を持っています。



石造地藏菩薩立像（市指定文化財 / 彫刻）

この地藏菩薩立像は、光背に「元禄十七（1704）申四月廿四日」と彫られ、江戸時代中期に制作されたものです。一つの花崗岩から台・光背・立像を彫りだしており、顔は彫りが深く、眼は半眼、上半身は撫で肩で、この時期の石造菩薩立像によく見られる右手に錫杖、左手に宝珠を持った姿となっています。

八幡神社 (片草)



旧片草村は尾張の東端にあたり、三国山（海拔 701 m）は文字通り、尾張・美濃・三河 3 州の境となっています。江戸時代には名古屋城下から山間を縫って信州飯田街道がこの北側尾根上を通っています。片草の氏神である八幡神社は創建年代などは不明ですが、片草村の村社として祀られています。西の独立した小丘陵（海拔 350 m）に片草城跡があります。

白岩八王子神社

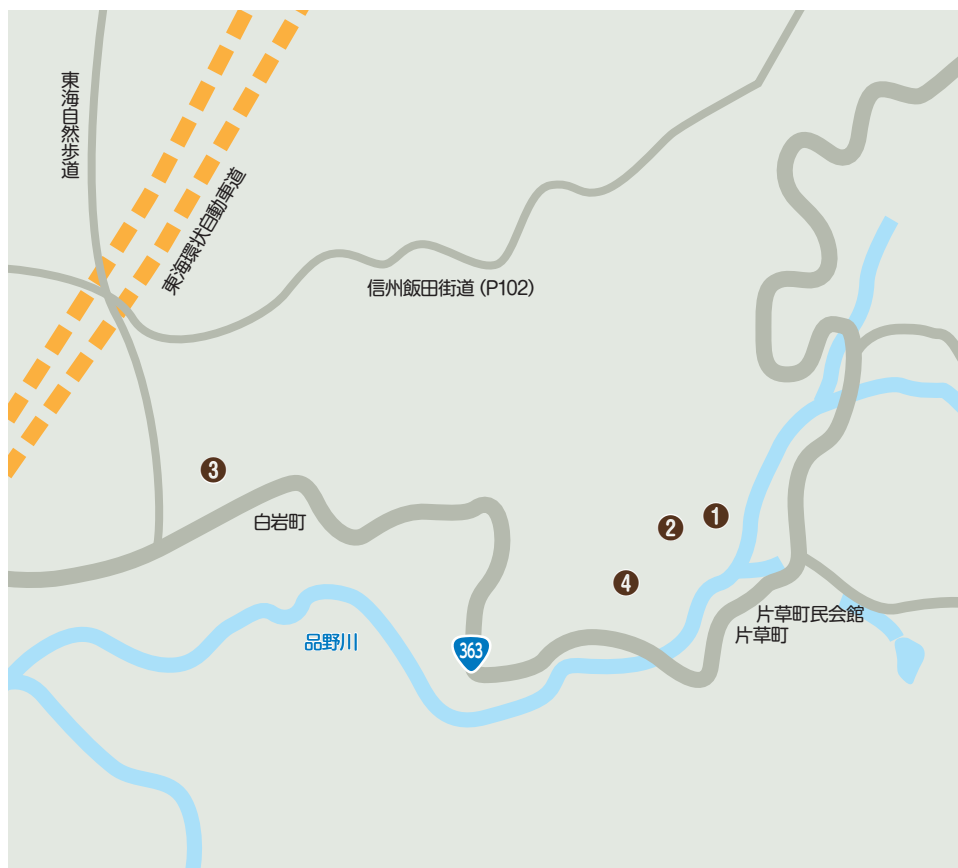


白岩村の村社で、祭神は須佐之男命の八王子（八柱御子）が祀られています。創建は嘉永元年（1848）とされますが、由緒については不明です。祭例は 10 月 16 日に近い日曜日に行われます。



片草城跡

片草村の氏神である八幡神社の西に独立した小丘陵（海拔 350 m）に片草城跡があります。山腹を削って二段構えとし、掘割で鶴翼形をした平山城の遺構が残っています。この城には、「享禄 2 年（1529）上品野秋葉山城で松平勢と戦って敗走した織田方の坂井氏の族人が隠れた」伝承があり、定光寺祠堂帳に寄進の記録が残る「坂井十郎」の城であったともされ、地域には坂井姓の方もいます。江戸時代の村絵図では「城主名不詳の古城跡」として記載されています。



- ①石造薬師如来坐像 (P115)、石造地藏菩薩立像 (P116)
- ②八幡神社 (片草) (P117)
- ③白岩八王子神社 (P117)
- ④片草城跡 (P118)